



発行所：日本合板商業組合

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-4

TEL：03-5256-9080

<https://www.nichigoshonet/>

e-mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

Japan Plywood Wholesalers Association

TOPIC 1 | 建材・設備メーカー、オンラインでのアプローチを強化

新型コロナウイルス感染拡大の影響で自粛を余儀なくされる中で、建材・設備メーカーはオンラインショールームの提案など、非対面型のアプローチを強化している。

LIXILはショールームの「オンライン接客」サービスを全国でスタートした。オンラインで顧客とショールームコーディネーターをつなぎ、要望をヒアリングする。ショールームに展示している商品を360°写真で確認できる「ショールーム 360° 展示写真」などを用いて商品説明を行い、プランの見積、3Dの完成予想イメージを作成まで、すべてオンライン上で対応する。

永大産業は、スマートフォンやパソコンなどの画面上から、ショールーム内部を疑似見学できるサービス「ショールーム360° Web見学」を充実。360°カメラで撮影したショールーム内部の画面を同社のWebに掲載。大阪・梅



LIXILは、ショールームの「オンライン接客」サービスを全国でスタートした。360°カメラでショールームを撮影。顧客はオンライン上でショールームに展示されているキッチン、ユニットバスなどの商品を確認できる

田ショールームに限定していたが、新宿ショールーム、横浜ショールームの2カ所分を加えた。

ウッドワンは、在宅勤務を行なう建築業界のプランナー向けに、同社商品のプランニング、見積業務が可能な3つの「オンライン・プランニングツール」を紹介する特別サイトを開設した。いずれも同社ホームページから無料で利用できる。

他大手メーカーでも開設準備が進むなど業界全体にオンラインによるアプローチが広がりつつある。オンラインツール自体もさらに進化し、普及が進んでいきそうだ。

TOPIC 2 | コロナ禍で業績悪化を住宅各社懸念

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛や緊急事態宣言による休業要請での展示場休止などの影響で、住宅各社は今期業績について厳しい見通しを示している。2020年度の新設住宅着工全体への影響も必至だ。

大和ハウス工業は、現状、少なくともコロナ禍の影響が第2四半期まで及ぶとみている。このため、当初計画よりも売り上げで8300億円、営業利益で1900億円が減少すると見込んでいる。芳井敬一社長は、「リーマンショックから全てが立ち直るまでに5年かかったと言われているが、今回の(新型コロナの)影響は住宅マーケットにそれ以上の影を落とすかもしれない」と語る。

積水ハウスは「外出自粛などにより直接の折衝機会が減少しており、法人客も在宅勤務・テレワークなどによる折衝・接客機会が減少していることから、受注へ影響が出

ている」と指摘する。「第1・第2四半期の受注高の減少が、第3四半期以降の売上高・利益に影響が出てくる可能性がある」と懸念する。同社は3月、21年1月期の売上高を前年比7%増の2兆5850億円と予測するが、この時点ではコロナの影響を織り込んでおらず、「現在精査を進めている」としている。

19年度決算で過去最高の6493億円を連結で売り上げた旭化成ホームズも厳しい展開を見通す。旭化成ホームズは「19年度業績に届かない可能性がある」と影響の長期化を心配、業績予測は見送っている。

積水化学工業住宅カンパニーの21年3月期の売上高は5055億円と前年度比1.4%減と見通す。神吉利幸プレジデントは「第1クオーターを中心に大幅な受注減」を想定。「下期での回復を期待する」と話す。

住生活産業の総合情報誌 [ハウジング・トリビューン] Housing Tribune

「ハウジング・トリビューン」は他紙誌にはない個性を持った月2回刊の住生活産業の総合情報誌です